



▲当日最初のマダイは川島船長が上げた美しい80グラム級

▲合わせた瞬間にガッソと手に伝わる衝撃はだれをも興奮させる

▲たぐった糸をタルに収めて絡みを防ぐ

●船長も竿を出し潮具合を見ながら操船する



### 今回の釣り仲間

●取材でお邪魔させていただいたのは、千葉県流山市の中山貢一さんが幹事を務めるグループ。釣りは内房のご当地釣法、手バネのシャクリ釣りで狙うマダイです。



## ●仲間や家族と沖釣りホリデー! Charter boat fishing with friends and family

# 貸し切り船 ナビ

仕立専門

●撮影・文 / 古河好夫

【第16回】  
内房竹岡港

## 豊国丸

内房竹岡港の豊国丸は周年手バネのシャクリ釣りでマダイを狙う船宿。例年秋～冬にかけては数型ともに楽しめる絶好のシーズン。釣り方は船長がレクチャーしてくれるので、心配は無用。ビギナーも安心して出かけてほしい。



▲秋～冬にかけては数型ともに期待度◎



▲秋～冬にかけては数型ともに期待度◎

現在2本の手バネを巧みに操りマダイを釣る船長だが、数

たというから驚く。マダイのシャクリ釣りは、丸が漁の合間に釣り人を乗せるようになったのは、先代が舵を握っていた約70年以上前のこと。職漁で狙っていた魚はもちろんマダイ。竹岡周辺のマダイは味がよいとされ高値が付いたそう。道具立ては時代とともに多少変わったものの、テナヤにエビを付けてシャクリ釣りは今も昔も変わらない。小学5年生になったころには、マダイ漁や遊漁船の手伝いを始めていた川島誠一船長。当時の船頭は一人で3本の手バネを操り、次つぎにマダイを釣り上げたというから驚く。

### マダイのシャクリ釣り一筋の老舗船宿

年前までは3本半スタイルで釣っていた。

「私もこの釣りを始めて60年以上たちますが、漁にしる遊漁にしる、私の中でタイを釣るということは変わらない。だからお客さんには絶対負けませんよ」と言って笑みをこぼす。

ちなみに船長が釣ったマダイはお客さんたちのお土産となる。さて、今後の見通しだが本誌が発売される10月中旬から翌年の1月にかけてはまさにベストシーズン。800グラム〜1キログラム主体に数釣りを楽しめ、4〜5キログラムクラスが交じることも珍しくないとのこと。昨年の同時期は6〜7キログラムの大ダイがずいぶん上がったそう。イナダやワラサなどの多彩なゲストも魅力で下船後のクラーの中は賑やかになるといいます。

使う豆テナヤは2号が基本。中オモリは探る水深に応じて船長が用意してくれるのでそれを糸に結ぶ。目下の水深は20〜30ピロが中心。船長が告げる指示ダナをよく聞いて正確にタナ取りすることが釣果に結びつく。「今はまだ少し水温が高いけど

吉岡さんが終盤にキマッした1.5キログラム



TARGET  
マダイ

▲当日は走水沖と久里浜沖を狙った



▲手バネをシャクリ釣ってマダイを誘う

### 久びさに3枚釣っちゃいました!

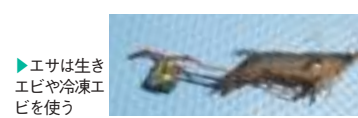
by 吉岡都雄さん

船長を除きこの日一番マダイを釣ったのは右トモの吉岡都雄さん(千葉県野田市)。とっても楽しそうに釣っていたのでお話を聞いてみました。「マダイを3枚釣ったのは久しぶりです。いつも1枚くらいしか釣れないので(笑)。手バネのシャクリ釣りは10年ほどやってますが、糸をたぐっているときにダイレクトに手に伝わるマダイの引きが最高ですね。一度味わったらだれでもヤミツキになるといいます。今日釣ったマダイは刺身や塩焼きでいただきます。1〜2日寝かせた東京湾のマダイの刺身は絶品ですからね。今から楽しみです!」

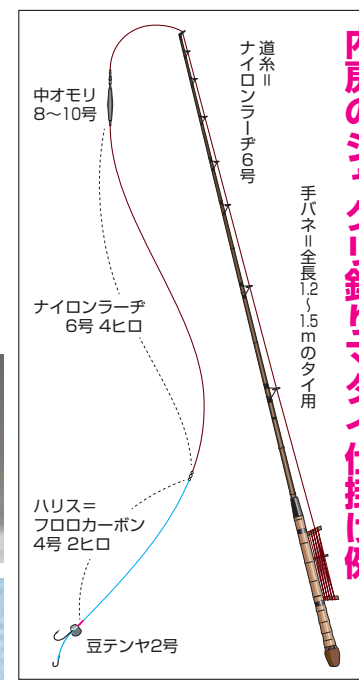


11〜12月になればちょうどよくなって最高に楽しめると思いますよ」と船長。手バネで釣る伝統釣法と聞くとなんとなく難しそうですが、と友人好みの難しい釣りなので、希望すれば出船前に川島船長が釣り方をいねいに教えてくれるから、釣りが初めての人でも心配は無用。実際に初めてこの釣りに挑戦

中オモリは8〜10号、豆テナヤは2号を使用



▲エサは生きエビや冷凍エビを使う



### 内房のシャクリ釣りマダイ仕掛け例

●内房竹岡港  
**豊国丸**  
TOYOKUNIMARU  
●Takeoka port, Uchibo  
☎0439-67-8203 (詳細は巻末の情報欄参照)



▲竹岡港のスロープから出船。「最大10名まで、8名までが釣りやすい」と船長

**料金プラン**  
●1名より受付。1～2名で利用する場合は(平日)3万7800円、(休日)4万1040円。3名は(平日)4万3200円、(休日)4万6440円。それ以上は1人増すごとに5400円。上記はすべて税込みの料金。下船後に船宿にて精算。日祝日はマダイ乗合も出船。



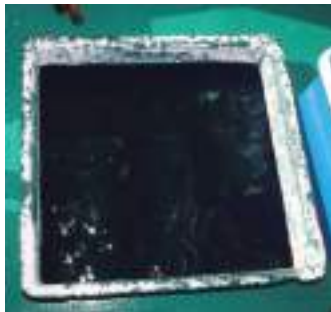
▲川島 誠一船長



豊国丸の船宿



▲駐車場は宿の向かいのスペース



▲釣った魚はイケスに入れて生かしておく

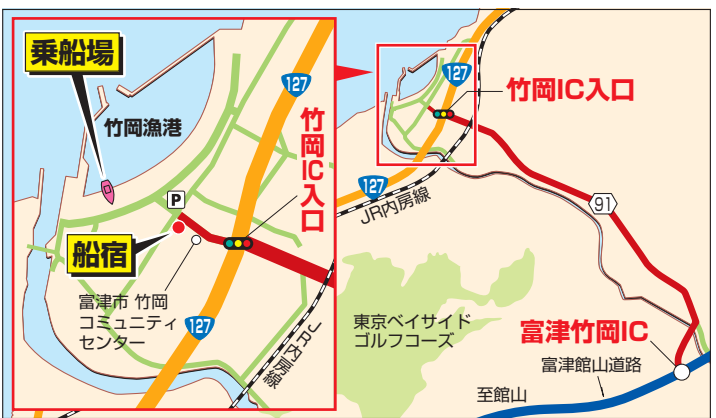


▲船長特製の豆テンヤは船宿で購入できる



▲船長の息子さんお手製の手バネは貸し出し無料

- 利用ガイド**
- 【予約方法】電話にて日程、人数、希望の釣り物などを伝えて日取りを確保
  - 【出船時間】6時～(季節によって変動あり)。沖揚げりまで最大7時間
  - 【エサ、氷、仕掛けなど】氷、エサ付き。豆テンヤは船宿で購入可能
  - 【レンタルタックル】手バネ一式貸し出し無料
  - 【集合場所】船宿に集合。車は船宿に隣接する駐車スペースに停める
  - 【備考】希望により、出船前に船長から釣り方のレクチャーが受けられる



**《釣り物カレンダー》**

釣り物	シーズン(月)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
マダイ		🐟	🐟	🐟	🐟	🐟	🐟	🐟	🐟	🐟	🐟	🐟	🐟



▲仕掛けはできるだけ遠くに投げ入れるようにするのがコツ



▲吉岡さんが釣り上げた2枚目は1キロ



●船を操船しながら魚を掛け、取り込みますべてて一人で行う川島船長



▲大きなウスバハギも

▲マダイは800グラム前後がアベレージ



●ワラサも上がった



▲最後の最後に川島船長が上げた1.5キロ級

**豊国丸のココが好き!**

幹事の中山貢一さんに聞きました!  
手バネのパイオニアがていねいに教えてくれてとにかくよく釣らせてくれます!

「豊国丸を利用するようになったのは25年ほど前からで、今も月イチペースで楽しませてもらってます。船長はまさに手バネのパイオニアといった感じでよく教えてくれるし、いまだに感心させられることも多いです。仕掛けの作り方なんかも教えてくれてとても参考にになりました。自分でマダイをバンバン掛けてガハハ!と笑う笑顔もいいですね。釣り場では何度も船を細かく流し変えてくれて、毎回とにかく釣らせようと頑張ってくれるのでこっちはうれしくなります。手バネのシャクリ釣りは奥の深い釣りですが、決して難しくないので多くの人に楽しんでほしいですね」  
当日は5名で乗船し、1人あたりの料金は1万800円。ご協力ありがとうございました。

**前半は苦戦するも中盤からマダイ連発!**

豊国丸を訪れたのは9月下旬のこと。千葉県流山市の中山貢一さんが幹事を務めるグループが仕立てた船にお邪魔させてい

ただ。当日は6時に出船。約1時間ほど走った走水沖で開始となった。まずは指示ダナ16ヒロの浅場から探っていく。しばらくやってみたもののアタリが出ないので移動。指示ダナ22ヒロのやや深場で再開となる。

ここで船長がすぐに1キロ級のきれいなマダイを釣り上げたが後が続かない。「この間のシケで海が変わっちゃいましたね。シケの前まではマダイやワラサ、ホウボウなん

かがいいペースで釣れてたんですけどね」と船長。そんな話を聞いていると左胸の間の南雲さんがガツンと手バネを曲げた。明らかに良型とわかる引きだったが、残念ながらハリが外れてしまった。釣り開始から3時間が経過したところで船長から、「作戦変更! 上げて!」と声が上がって移動となる。到着した釣り場は久里浜沖。指示ダナ21ヒロで再開。

ここでは右トモで竿を出していた吉岡さんが早々に800グラム級の本命をキャッチ。続けて2.5キロ級のワラサが上がり、再び800グラム級のマダイが胸の間で取り込まれた。

船長の作戦変更は大正解で、その後はポツポツと0.8〜1.5キロ級のマダイが取り込まれ、良型のカワハギやカサゴなども登場。吉岡さんは1.5キロ級を頭にマダイを3枚キャッチした。

「今日はシケの影響で厳しかったです。でも海が直ればまた前みたいに釣れるようになると思っています」と船長。

東京湾の手バネのシャクリ釣りで狙うマダイはこれからがベストシーズン。秋晴れの空のもと、スリル満点の釣趣を味わってみてはいかがだろう。